

2025年 1月 21日

各 位

会 社 名 トレックス・セミコンダクター株式会社  
代 表 者 名 代表取締役 木 村 岳 史  
社長執行役員  
(コード番号：6616 東証プライム市場)  
問 合 せ 先 取締役 執行役員 前 川 貴  
経営企画室 室長  
(TEL. 03-6222-2875)

## サステナビリティ基本方針およびマテリアリティの特定について

当社は、サステナビリティ経営の実践による中長期的な企業価値の向上を図るため、サステナビリティに関する基本的な考え方を踏まえたサステナビリティ基本方針を策定し、マテリアリティを特定しましたので、お知らせいたします。

### 記

#### 1. サステナビリティ基本方針

トレックスグループは、「価値ある製品を通じた豊かな社会の実現と地球環境の保全」を掲げ、環境・社会に貢献するという考えを経営の中心に据え、共存・共栄の精神で、すべてのステークホルダーとともにサステナビリティ推進に取り組んでまいります。

#### 2. マテリアリティの特定プロセス

トレックスグループにおいて、中長期での持続的な成長や企業価値向上に向けた不可欠な要素は、確かな技術力に支えられた付加価値の高い製品の提供と、こうした製品を生み出す源泉である人財、その人財が安心して働き続けることができる環境です。また、気候変動をはじめとする環境問題への対応についても十分な配慮が必要であることに加え、成長の基盤として中長期の成長シナリオを描き、挑戦するための経営基盤の確立も重要です。

こうした考えに基づき、トレックスグループでは下記の特定期間を経て、4つのマテリアリティを設定しました。

##### <マテリアリティ特定プロセス>

##### STEP 1 メガトレンドやESG課題候補のリストアップ

- ・メガトレンドに対する影響度を議論
- ・影響度の大きい項目を「ESG課題検討リスト」に追加しマテリアリティ候補として検討

##### STEP 2 ESG課題検討リストの作成

- ・GRIスタンダード、SASBに加え、メガトレンドシートにて影響度を「大」とした項目を踏まえ、マテリアリティ候補となる「ESG課題検討リスト」を作成

##### STEP 3 重要度・影響度判定の実施と結果のマッピング

- ・「ESG課題検討リスト」から、ステークホルダー及び自社の課題をマッピングし、マテリアリ

ティ候補とすべき課題を抽出

STEP 4 マテリアリティ候補の抽出

- ・マッピング上での各課題の散布度合を踏まえ、マテリアリティ候補とする基準を設定し、マテリアリティ案を抽出

STEP 5 マテリアリティの承認

- ・サステナビリティ委員会で議論し、マテリアリティを特定。取締役会での審議、承認

3. マテリアリティ

上記の結果、特定したマテリアリティは以下の通りです。

マテリアリティ	基本方針
社会課題解決に向けた高付加価値製品の提供	トレックスグループの製品は、世界中のあらゆる分野で使用される電子機器に広く採用されています。 持続可能な社会の実現に向け、高付加価値な半導体製品を提供することで、社会課題の解決と事業の成長の両立を目指しています。
多様で個性ある人財が活躍できる環境の整備	トレックスグループの強みは、長年にわたる半導体事業で培った技術力と、市場のニーズを的確に捉える力です。この力を次世代に継承し、急速に変化する時代に対応できる専門性と独創性を備えた組織力を構築するため、人財の確保と育成を推進していきます。 また、多様な個性と専門性を活かし、従業員が自発的に活躍できる職場環境の整備にも注力していきます。
地球環境保全に向けた取組の推進	トレックスグループは、気候変動を含む環境問題を、持続可能な社会の実現に向けた重要な課題と捉えています。 バリューチェーンを通じて、環境負荷を軽減する半導体製品を提供することで、省エネや省資源化に貢献し、環境保全に取り組んでいきます。
すべてのステークホルダーのための経営基盤の確立	トレックスグループは、事業に携わるすべてのステークホルダーが共に繁栄することを目指しています。グループの継続的な事業成長を通じて、社会に貢献し、利益の創出を実現していきます。 中長期的な企業価値の向上に向け、堅実な経営基盤を維持し、リスクマネジメントを推進することで、さらなる成長を追求していきます。

以上